

1. 研究課題名：RF-1011 東南アジアにおける違法伐採・産地偽装対策のためのチーク産地判別システムの開発

2. 研究代表者氏名及び所属：
香川 聡（（独）森林総合研究所）



3. 研究実施期間：平成 22～23 年度

4. 研究の趣旨・概要

本課題では、違法伐採の対象となっている東南アジア産チーク材の産地を判別する技術を開発します。違法伐採抑止のための木材の産地判別技術に求められる条件としては、産地判別結果が高精度・高的中率でなくてはなりません。年輪毎に測定した安定同位体比データを複数年にわたって比較することにより、温帯産材の産地を誤差 180 km 程度で判別できます。そこで、産地の分からないチーク原木の年輪の同位体比時系列を（1）産地既知の木材と比較することにより、また、（2）降水量履歴が同位体比・年輪幅時系列と強く相関する測候所を特定することにより、産地判別を目指します。実現すれば、日本への違法伐採材の輸入を水際で阻止する技術に発展する可能性があります。

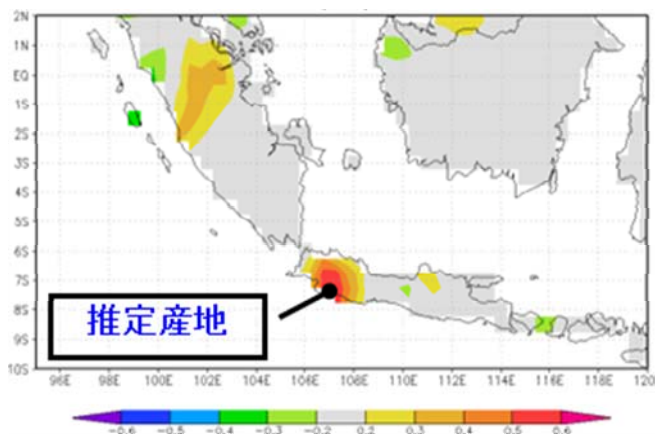
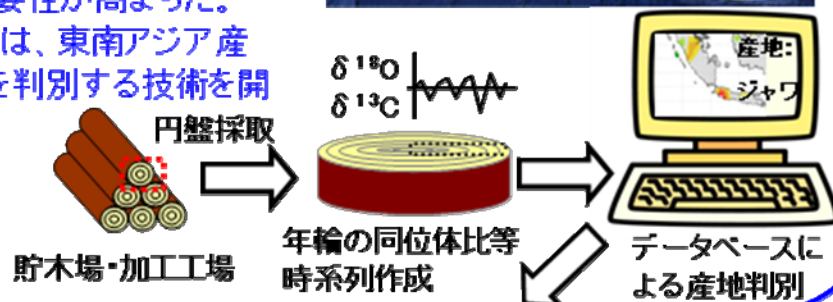
5. 研究項目及び実施体制

- ① 安定同位体比・年輪幅・密度によるチーク産地判別システムの開発（（独）森林総合研究所）

6. 研究のイメージ

背景と目的

- ・日本政府はグリーン購入法により、木材の合法性を確保する措置を開始した。また、アメリカ政府は違法伐採対策として、最近レーシー法を改正し、木材の原産国表示を義務付けた。
- ・その結果、木材の産地の真偽を検証する技術の必要性が高まった。
- ・そこで本課題では、東南アジア産チーク材の産地を判別する技術を開発する。



期待される研究成果

高精度・高的中率の東南アジア産チーク材の産地判別システム

地球環境行政への貢献

東南アジア産チーク原木丸太の原産国判別に成功すれば、日本へ輸入される違法伐採材を水際で阻止できる可能性があり、森林保全政策や地球温暖化対策への貢献が期待できる。